

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な学力の向上に向けた授業の推進
- ②言語活動を充実させ、自分の考えをわかりやすく伝える児童の育成
- ③進んで学習に取り組む態度を育て、学校と家庭の連携による学習習慣の確立

【各校の取組状況の把握について】

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○児童の漢字・計算・視写・音読などの基礎学力向上をめざし全校で取り組み、漢字の読み書きや計算などの基礎学力を身に付けることが概ねできている。 ●漢字の読み書きや計算などの基礎学力のさらなる定着を図る。また、語彙数が少なく、文章を読むこと・書くことを苦手とする児童が見られる。	①漢字や計算などの基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②進んで文章を読んだり、正しい文章表現で文を書いたりできる。	①ドリルやプリント、テストなどで児童の基礎的・基本的な知識・技能の習熟度を確認し、補充学習での指導に生かす。 ②読み聞かせや一斉読書の時間を通して図書や新聞などに親しませ、読書活動の充実を図る。また、作文指導を通して、正しい文章表現力を身に付けさせる。	・わからない言葉を辞書や辞典を使って調べさせ、児童の語彙を増やせるようにする。	①ドリル学習やテスト、ワークシートの工夫をすることで、知識・技能の向上につなげることができたが、能力差に応じた課題の提示は難しかった。 ②作文指導を通して、正しい文章表現の定着を図ることができたが、継続的な指導が必要である。また、辞書を引く機会を増やし語彙力を高めることはできたが、進んで読書活動に取り組ませることができなかった。	①ドリルやプリントの補助教材に加えて、タブレットドリルやミライシードの問題を活用し、個人の能力に応じて課題に取り組めるようにする。また、教師が相互に指導方法について話し合い、児童の基礎学力の向上が図れるよう指導方法を改善する。 ②学級文庫や図書室の本を精選して揃えたり、委員会活動を通しておすすめの本を紹介したりするなど、読書量を増やす工夫を継続して行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えや意見を積極的に相手に伝えようとしている。 ●様々な学習場面での言語活動を通して、自分の考えを深め、相手や目的に応じて、適切に表現する力を伸ばす必要がある。また、筋道を立てて思考することが不十分である。	①自分と友達の考えを比較・検討しながら聞き、自分の考え深めることができる。 ②目的に応じて、根拠や理由を明らかにし、筋道を立てて自分の思いや考えを表現することができる。	①②授業の中で、自分の考えを理由を添えて述べたり、相手の意見と比べながら聞いたり、根拠を元に自分の考えを記述したりする機会を多く設定する。 ②テーマを決めて日記や作文を書かせることで、自分の考えをまとめる機会を増やす。	・発表の話型を活用して理由を付けて発表する練習を行う。 ・徳島県学力向上確認プリントを活用し、思考力を育成する。	①考えの根拠となるところに線を引かせたり、根拠を問う発問を増やしたりすることで、筋道立てて考えを表現する力を育てることができたが、課題意識の共有と更なる指導方法の改善が必要である。 ②日記や作文の指導、徳島県学力向上プリントの活用により、自分の考えを書く機会を多くもたせることができたが、表現力には個人差があり、不十分な児童もいた。	①② MetaMoji Classroom や Teams を活用しながら、児童が意見共有できる機会を設け、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力や友達の考えを聞く力を育てる。また、発表の話型を参考に、発達段階に応じた話す力を身に付けさせるよう授業改善に取り組む。 ②作文指導の手引きを活用して自分の考えを表現する活動を行い、個人の能力に応じて支援ができるよう工夫する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、真面目に取り組むことができています。 ●自分から課題を見つけて取り組むことが苦手である。また、学年に応じて、家庭学習の時間を決めていますが、学年が進むにつれて、家庭学習の時間が確保できていない状況である。	①自分から課題を見つけて、自主学習に取り組むことができる。 ②苦しい課題や家庭学習についても、自分から前向きに取り組むことができる。	①児童の主体的な体験や活動を授業や学校生活全般に取り入れる。(ICT機器の活用やホワイトボードミーティング等) ②「家庭学習の手引き」にそった家庭学習を定着させ、できる喜びを感じ、様々な課題に根気よく取り組む態度の育成を図る。	・児童が安心して意見を伝えられる機会や雰囲気をつくり、自主的に発表ができる環境を整えていく。 ・ノート指導に力を入れる。	①児童が協働的に学び合えるようにするために、黒板やホワイトボード、ICT機器等を授業や学校生活全般に取り入れることができたが、児童の発表スキルには課題がある。 ②家庭学習の目安時間を設定して取り組ませたり、手本となる学習ノートを紹介して意欲を喚起するよう努めたりしたが、主体的な取り組みになりにくい児童もいるため継続した指導が必要である。	①ホワイトボードやICT機器を活用して協働的に学ぶ機会をさらに増やすことで、教師対児童、児童対児童と対話を通じて考えが深まるような授業に工夫・改善していく。また、話し合い活動の基本的スキルを身に付けさせることで、主体的・能動的な活動に取り組もうとする心情を高めていく。 ②学習チェックシートで自分の学習状況を確認させ、基本的な学習規律を身に付けさせることで、主体的に学習に取り組む素地をつくる。また、プログラミング的思考力を養うことで、自主的に学ぼうとする態度のさらなる育成を図る。

令和3年度 学力向上ロードマップ



